

令和七年度事業計画案

日蓮宗現代宗教研究所は教団の付置研究所として、宗門のシンクタンクとしての役割を果たすと共に、

現代社会における宗教的な問題・課題についての研究調査を行う。殊に宗門運動に関する調査研究、教育制度等々、数年度に亘る長期的視野を念頭に置く調査研究にも取り組んでいく予定である。さらには柱となる共同研究・個人研究を行うと共に、中央教化研究会議の主催並びに教区教化研究会議の共催・管区教化センターへの助成等の事業を行っていく。本年度の事業概要は以下の通りである。

1、教化研究会議

●第五十八回中央教化研究会議

- ・期 日 令和七年十月二日～三日
- ・会 場 日蓮宗宗務院
- ・参加者 教区教研運営委員
- ・内 容 本宗が直面している又は直面するである

う問題に対して、各教区教研委員と協議する。

●教区教研会議の開催（共同運営）

- ・期 日 各教区との調整により開催
- ・会 場 各教区による指定場所
- ・参加者 各教区の教師並びに寺院婦人
- ・内 容 各教区において事前に担当宗務所及び各管区教研委員及び現宗研による運営会議を開催・協議し、地域の独自性を加味したテーマを決定する。
- ・助 成 教区教研会議に対して助成を行う

2、各種会議

●教区教化研究会議連絡会議

- ・期 日 令和七年五月二十二日
- ・会 場 Web会議サービスZoom
- ・参加者 各教区教研運営委員（前年度・当年度・

次年度の各代表者一名

- ・内容 教区教化研究会議の事業報告・事業計画をもとに情報交換を行い、教区間の協力と調整を図る。

●教化センター連絡会議

- ・期 日 令和七年五月二十三日
- ・会 場 Web会議サービスZoom
- ・参加者 各教化センター代表者一名
- ・内 容 各教化センターによる事業報告及び事業計画をもとに情報交換を行う。

●研究員・顧問・嘱託会議（全体会議）

- ・助 成 全国教化センターに助成を行う
- ・期 日 令和七年四月十日
- ・会 場 日蓮宗宗務院
- ・参加者 所長、主任、所員、研究員、特別研究員、顧問、嘱託
- ・内 容 年度事業の運営及び調査研究対象の確認などを行う。

3、発表大会

●第二十六回日蓮宗教化学研究発表大会

- ・期 日 未定
- ・会 場 日蓮宗宗務院
- ・参加者 本宗教師及び寺族並びに檀信徒
- ・告 知 『宗報』にて募集と告知を行う
- ・内 容 教化学を中心に教学、仏教学に関し、自由テーマの研究発表大会を行う。

4、調査と研究

- 教研会議や教化学研究発表大会、研究例会の成果をふまえ、研究員を中心に教学の現代的な解明に関する研究を行う。

- 現代における諸問題についての調査を行った上で、教化のあり方を検証し布教方策の研究を行う。

- 諸問題に対応した現代的教団の在り方について他教団と情報交換を進め研究を行う。

- 現代における新宗教教団の活動等について情報を収集し、研究を行う。

- 伝道部・教務部と連携を図り、宗門運動や教団のあり方と布教方策について研究する。
- 必要な調査研究を行うため、研究員・特別研究員・顧問・嘱託は分担してプロジェクトチームを構成する。
- 研究員は各自の研究テーマをそれぞれの立脚点として、宗門に寄与すべくその成果を発表する。
- 近代日蓮教団史として年次年表を作成し、宗門の動向を記録する。本年度は『令和六年日蓮宗年表』を発行する予定。
- 現宗研ウェブサイトの充実と運用を行う。また、諸資料のデータベース化や各種事業の公開など、研究所としての布教伝道方策を研究する。
- 宗教及び仏教関係学会、「日本宗教学会」「日本印度学仏教学会」をはじめとして「日本仏教社会福祉学会」「日本スピリチュアルケア学会」等、また「教団付置研究所懇話会」「全日本仏教会」等に参加し情報収集と研究調査を行う。
- 臨床仏教師、認定臨床宗教師の資格取得に対する助

成を行う。

- その他、必要となる調査研究を行う。

5、資料部門

- 『現代宗教研究』第六十号を発行する。
- 宗門の公式資料を収集し、整理と保管を行う。
- 各教化センターと連携し調査及び教化研究を行う。また、布教資料などの交流を図り、収集に努める。
- 宗門教師が必要とする図書を購入し、コンピュータで蔵書を管理した上で、ウェブ上で検索できるシステムを構築し、閲覧できるようにする。
- 宗門教師が必要とする視聴覚資料を購入し保管する。
- 新宗教及びカルトに関する資料を収集し保管する。
- 必要に応じて現代教化シリーズを発行する。
- その他、調査研究を行う上で必要となる教化資料を収集し保管する。